

朝刊、11月からパワーアップ

NEXT1000

光る中堅上場企業を発掘

NEXT1000面では将来の日本経済のけん引役として成長が期待される、中堅企業を紹介し、電気自動車やビッグデータ、AI関連など、国内外の産業構造はこれまでにないスピードで変化しています。変化に適切に対応し、成長できる、投資先としても魅力的な企業を探ります。

売上高が100億円以下の約1000社を主な対象とし、財務の指標など様々なテーマでランキングを作成します。上位の企業を中心に、その企業の強みや成長の秘訣などを解説します。日本国内はもちろん、アジアなど海外の企業も取り上げます。

併せて、現在は未上場だが、将来の日本経済を支えるであろう有力スタートアップ企業約100社を分析した特集記事を11月下旬に紙面で掲載します。

「未来が見える」紙面充実

日本経済新聞は11月の購読料改定に合わせてコンテンツをさらに充実します。「未来が見える」をキーワードに、時代の先を読み解く紙面を大幅に増やします。

デジタル技術の進歩やグローバル化の波は、未来を大きく変えようとしています。世界が激動する時代に、日本の革新力を生み出すテクノロジーは何か。どんな企業、人物が未来を担うのか。それを解き明かすのが新紙面の狙いです。

日経はパートナーである英フィナンシャル・タイムズ(FT)とともに、世界を代表する経済のクオリティ・ペーパーとして、新しい時代の羅針盤の役割を果たします。日経でしか読めない質の高いコンテンツを追求します。

新聞の魅力に一段と磨きをかけ、読めば未来が見えてくる紙面、新しい価格に見合った価値ある日経をお届けします。読者の皆様のご期待に応えられるよう総力で取り組みます。引き続きご愛読ください。(1面参照)



(注)写真は一部口イター、AP

Digital Trend

ネット世界の最前線を解説

「Digital Trend」面では、ネット世界の最前線に起きている事象をわかりやすく解説します。交流サイト(SNS)の情報拡散力や、ネット上の新しい決済手段が社会をどう変えるのか。消費者の目線でデジタルの最新動向を伝えます。

企業広告などに批判的な投稿が殺到する「炎上」はなぜ起きるのかを解説します。中国やインドで急速に普及するスマートフォン(スマホ)を使った決済サービスの使い勝手も、記者の体験談として掲載します。

次々に登場する新ビジネスについても、仕組みやメリット・デメリットを分析します。従来の法規制が想定していない新事業をどうコントロールしていくかも大きなテーマです。また、日経電子版の記事や読者投稿の分析も掲載します。

ニッポンの革新力

日本の産業界の進むべき道探る

世界では人工知能(AI)が多くの領域で人間の能力を超え、電気自動車(EV)の普及が始まるなど、経済のパラダイムシフトが一斉に起きています。11月に1面でもスタートする大型連載「ニッポンの革新力」ではその奔流のなか、日本の産業界が進むべき道を探ります。

日本経済は拡大が続くものの、力強さに欠けています。大きな理由は、IT(情報技術)などで新産業を生み続ける米国や急成長する中国やインドなど新興国の勢いに押され、「技術立国」という日本の看板が揺らいでいることにあります。

一方で日本には治安の良さ、観光資源など世界に通用する強みもあります。連載ではデータに基づき、日本の技術力や企業競争力の現状を検証します。そのうえで、日本企業が活力を取り戻すための条件を描きます。

ポスト平成の未来学

実現可能な未来社会を予測

天皇陛下の退位が決まり「平成」の次の時代が見え始めた日本。「ポスト平成の未来学」では記者が未来の端緒を感じさせる最先端の現場を実際に体験し、次の時代の社会像を探ります。単なる空想ではなく、専門家の見方や具体的なデータなども使い、実現可能な未来社会を提示していきます。

平成の時代ではAIや自動車の自動運転などの技術革新が大きく進みました。こうした技術が次の時代の価値観も変えるのでしょうか。あるいは加速する人口減少や経済成長の鈍化などで「失われた20年」が再来する可能性もあるのでしょうか。様々な切り口から次の時代の課題に切り込みます。

電子版とも連動し、動画なども使って紙面では伝わらない臨場感のある現場を伝えます。

Innovation Roadmap 2030

先端技術の将来、ビジュアルに

11月からは1面連載「ニッポンの革新力」と連動し、関連特集の「Innovation Roadmap 2030」も掲載します。様々なデータを駆使し、2030年に向けた世界のイノベーションのロードマップを描き、ビジュアルな紙面でお届けします。

ITや自動車以外でも万能細胞を使った再生医療、仮想通貨といったフィンテックの普及など、近未来の世界経済を変えようとする技術やトレンドの行方を予想します。日本が後れを取らないための研究開発体制のあり方や整えるべきルールも考察します。

平成の30年 陶酔のさきに

ニッポンを見つめ直す

区切りを迎えようとしている「平成」というひとつの時代。30年前の日本はバブル景気に沸いていました。平成の時代は、その異様な熱狂と陶酔の中で始まったのです。ほどこなくしてバブルははじけ、「失われた20年」へと進んでいきました。

平成という時代は何だったのでしょうか。グローバル化やITがめざましく進展する一方で何が起き、何を見つけたのか。じき30年目に入る平成ニッポンを振り返り、見つめ直す紙面を、ほかに先駆け7日から週末の土曜日にお届けします。

HOT STORY

電子版とNAR 話題の1本

日経電子版やNikkei Asian Review(NAR)で好評だったオリジナル記事を毎週日曜日に紙面で紹介します。ビジネスの深層に迫る「コンフィデンシャル」や中国の今を鋭い視点で読み解く「激震 習政権ワオッチ」就活生に人気がある「お悩み解決! 就活探偵団」など電子版の看板コラムが紙面でも楽しめます。Asian Reviewはアジアビジネスに携わるビジネスパーソンに向け各国・地域のビジネスニュース、政策、経済動向などを日々英文で発信しています。世界の読者に支持された、とっておきの1本を翻訳してお届けします。

NIKKEI The STYLE

「インタビュー面」新設

日曜日の「NIKKEI The STYLE」では各界の著名人が自分の人生を語る「インタビュー面」を新設。経営者や文化人、スポーツ選手の現在につながる生い立ちや自分の原点となるエピソードから、未来を切り開くヒントを探ります。普段とは少し違った素顔が見える紙面です。

ファッション面などでは英紙フィナンシャル・タイムズ週末版の記事を随時、翻訳掲載します。世界のトレンド情報がいち早くご覧いただけます。作家の伊集院静さんによるゴルフコラムも始まりま

日経朝刊 新紙面の掲載日

10月	毎週土曜	平成の30年 陶酔のさきに
	毎週日曜	HOT STORY NIKKEI The STYLE新装刊
	隔週火曜	NEXT1000 Digital Trend
11月	毎週木曜	ポスト平成の未来学
	月2回程度	Innovation Roadmap 2030